

株式会社阪技

兵庫県

【経営者の声】

代表取締役社長

後藤 純次さん

当社が障害者雇用に取り組み始めたのは十数年前のことになります。当初の目的は法定雇用率の達成であり、現場には「障害のある社員は戦力になるまでに手間も時間もかかる」という意識がありました。しかし、雇用を進めるにつれ、障害がある社員のまじめな働きぶりや、障害があるからこそ活躍できる部分がだんだん見えてきて、現場の理解が進みました。

大切なのは、障害のあるなしにかかわらず、適材適所で働いてもらうことです。適性に合った仕事を任せることで、本人もやりがいを感じることができ、長く働くことにつながると考えています。数ある仕事のうち、障害のある社員の適性に合った仕事を見つけて切り出すことによって、障害のある社員が活躍できると同時に、ほかの社員の負担も減ります。このことは、働き方改革にもつながると思います。



直面した課題と対応策

従事する職務の選定

採用した障害者になるべく早く戦力になり、安定して働けるよう、採用した障害者が能力を発揮でき、やりがいを感じられるような業務を見つける必要があった

採用前に職場実習を行う際、実習生の得意分野や特徴を特別支援学校から事前にヒアリングし、実習内容を決定

現場で行われている業務の作業工程を分析・細分化し、障害のある社員の特性や適性を見きわめながら仕事の切り出しを実施

職場定着のための工夫

聴覚障害のある社員について、コミュニケーションの面で不安があった

職場の同僚や上司が意思伝達について意識しているほか、問題が生じた場合は特別支援学校の先生や保護者を交えて面談を実施



Point | 一人ひとりの特性や適性を見きわめ、マッチングを検討
| 聴覚障害のある社員について、日頃から意思伝達に留意するとともに、必要に応じて先生や保護者を含めた面談を実施

取 組 み の 詳 細

【職場実習の受入れ】

- ・同社では、障害者の採用に当たっては、採用前に職場実習やインターンシップを行い、職務への適性をみることにしている。職場実習は毎年1名程度の採用を目途に実施している。
- ・特別支援学校から職場実習を受け入れる際には、学校側に同社の業務内容をできる限り伝えるようにしているほか、実習生の得意分野や特徴(パソコン作業が得意、細かい手作業が得意、経験がどの程度であるかなど)について、あらかじめヒアリングした上で、実習で行う業務を決めている。

【従事する職務の選定】

- ・同社では、社員一人ひとりの特性や適性を見きわめ、マッチングを検討している。業務の分担を割り振る際には、作業工程を分析・細分化したうえで検討を行うが、なるべく「障害者に向けた業務」という決めつけは行わず、本人の得意な作業、本人がやりがいを感じられる業務を割り当てるよう留意している。

【職場定着のための工夫】

- ・同社では、聴覚障害者を3名雇用しているため、職場の同僚や上司が意思伝達について意識している(話しかけるときは正面を向いて口の動きが見えるように話す、必要に応じて筆談を行うなど)。また、コミュニケーションの行き違いなどの問題が生じた場合は、特別支援学校の先生や保護者を交えて面談を行なっている(頻度は半年に1回程度)。

【障害のある社員の声】

Aさん (勤続10年目)

紙媒体の記録のスキャンや電子データ化を担当しています。入社当時に比べると、担当業務が複雑化し、量も増えましたが、データの件数など目に見える成果があり、やりがいを感じています。障害があることで周囲が変な目でみることはなく、職場の雰囲気は良好です。

福間 愛莉さん (勤続6年目)

聴覚障害がありみなさんとコミュニケーションができるか不安がありました。入社後は周囲の協力もあり、それほど苦労はありません。配慮されていることとしては、例えば毎朝朝礼の後、もう一度話して伝えてくれるなどがあり助かっています。



● 事業所データ

- 所在地……………兵庫県高砂市
- 従業員数……………238名
- 事業内容……………発電プラントの計画、原動機(タービン)の設計、生産技術、品質関係業務、システム開発など



● 雇用障害者データ

- 雇用障害者数…5名
- 障害種別……………聴覚障害、内部障害、下肢障害
- 業務内容……………設計業務、事業作業(記録入力、スキャン等)
- 労働条件等……………正社員待遇